中学・高校音楽通信　2012年　秋号

音楽のおくりもの　Information

Spire_M

中学・高校版
通巻第24号

p.2
評価規準設定の手順と方法
～複数の領域・分野にわたる題材の場合～
新潟大学
伊野 義博

p.6
「音楽の真実」を求めて
一時空を越えるウィーン旅行記
横浜国立大学
茂木 一衛

p.10
和楽器を使う授業のコーディネート
作曲家
眼龍 義治

p.15
編集部からのお知らせとお願い

教育出版

評価規準設定の手順と方法
～複数の領域・分野にわたる題材の場合～

新潟大学教育学部　伊野 義博

評価の観点や評価規準設定の手順と方法については, Spire_M（中学･高校版通巻第 22 号）において，事例を通して説明しました。今回は，「A 表現・歌唱」と「B 鑑賞」といった複数の領域・分野を関連させた評価規準の設定について紹介します。

評価規準設定の際には，手元に国立教育政策研究所 教育課程研究センターがとりまとめた「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 音楽)」(以下参考資料）＊1 を準備してください。ここに示された評価規準の設定例を参考にしながら，学校や生徒の実態等を考慮し，適切な評価規準として設定していきます。

1　基本的な手順

評価規準設定の基本的な手順は，次のようになります。

①授業のねらいや内容，教材，対応する学習指導要領の指導事項，〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素等を決定する。
②「参考資料」のうち，相当する学年の「評価規準の設定例」に着目する。
③「評価規準の設定例」から,指導事項と〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素に対応するものを選択する。
④選択した「評価規準の設定例」に基づいて，実際の授業ではどのような評価規準にすれば良いかを考える。
⑤題材内での位置づけ，評価方法等を考慮して，評価規準を決定する。

2　評価規準の設定例～能「羽衣」の場合～

ところで皆さんは，今回初めて教科書に教材として登場した，能「羽衣」の授業をされたでしょうか。「音楽のおくりもの 2・3 下」の 32 頁と 38 頁に掲載されています。まだの方は，是非とも挑戦してください。指導書付属の DVD を使用しながら，楽しく味わい深い能の体験授業が可能な紙面になっています。ここでは, 能「羽衣」キリから「東遊びの数々に～」の部分が取り上げられています。今回は,「東遊びの数々に」の謡，太鼓の唱歌や掛け声による声の表現（歌唱）活動とキリ＊2 の部分の鑑賞活動を以下のように一題材として計画し，評価規準を設定してみます。声の表現の体験と鑑賞をつなげるもので，学校で太鼓や大小鼓などの楽器が準備できない場合でも実践可能な授業を想定しています。

謡に適した発声や言葉の特性及び謡と「囃子の手」の重なりを生かしてうたうと共に，能の音楽の特徴を舞やあらすじと関連付けて理解し鑑賞する学習 ・歌唱教材：能「羽衣」から「東遊びの数々に」の謡，太鼓の唱歌と掛け声 ・鑑賞教材：能「羽衣」キリ

＊1　国立教育政策研究所 教育課程研究センター「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 音楽)」平成 23 年 11 月。この資料は，同センターのホームページに掲載されています。また，教育出版株式会社より発行されています。
＊2　「キリ」とは，能の終結部のことです。

○学習指導要領の内容（第２学年及び第３学年）
A 表現・歌唱　イ曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して，それらを生かして歌うこと。
　　ウ声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して，表現を工夫しながら合わせて歌うこと。
B 鑑賞　　イ音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，鑑賞すること。
〔共通事項〕⑴ア **音色**：謡の声，掛け声や唱歌の音節の音色　**リズム**：囃子の手（リズムパターン），コミ，間　**旋律**：節の動きや装飾　**テクスチュア**：謡と「囃子の手」の重なり方

授業を全３時間とし，およそ次のように計画します。

・第１時間め：「羽衣」のあらすじや能の概略を学び，DVDによりキリの部分を鑑賞する。「東遊びの数々に」の謡と太鼓のところをDVDの範唱を聴きながらおよそ真似る。
・第２時間め：謡の部分の範唱をよく聴いて真似，拍をとりながら表現する。また同様に太鼓の部分も覚えて，唱歌を口ずさみ掛け声をかけながら手で打って演奏表現する。（生徒の実態や授業の形態に応じて，可能であれば，大小鼓も練習する。）グループに分かれ，謡と太鼓とを合わせて練習し，発表する。
・第３時間め：DVDを見ながら舞の一部を真似てみる。舞，詞章の内容，能の音楽を関連させながらキリの部分を鑑賞する。

教科書では，DVD による模範演奏の謡をよく聴いて真似，唱歌を用いて覚えるといった日本の伝統的な学習法を生かした授業ができるようになっています。生徒は，謡や太鼓のおもしろさを丸ごと学んでいきますが，この部分の音楽的な特徴を〔共通事項〕の視点からあえてみるならば，次のように分解することができます。

音　色：謡の声の音色，掛け声，唱歌の音節の音色
リズム：拍節，囃子の手（リズムパターン），コミの取り方，間
旋　律：節，音のつながり方，節の装飾
テクスチュア：謡と「囃子の手」の重なり方

このようなことから，〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素を，「**音色**（謡の声，掛け声や唱歌の音節の音色）」「**リズム**（囃子の手，コミ，間）」「**旋律**（節の動きや装飾）」「**テクスチュア**（謡と「囃子の手」の重なり方）」として，この学習を支えにした授業を構想し，評価規準を設定していきます。

《音楽への関心・意欲・態度》

A表現・歌唱イに対する評価規準の設定例は，次のようになっています。
・曲種に応じた発声（我が国の伝統的な歌唱を含む我が国や諸外国の様々な音楽の特徴を表現することができるような発声など）や言葉の特性（言葉の抑揚,アクセント,リズム,子音・母音の扱い,言語のもつ音質,語感など）に関心をもち,それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
A表現・歌唱ウに対する評価規準の設定例は，次のようになっています。
・声部の役割（音楽の構造におけるそれぞれの声部が果たしている役目など）と全体の響きとの関わりに関心をもち, 音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
B鑑賞イに対する評価規準の設定例は，次のようになっています。
・音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。

これらの設定例を「羽衣」の授業にあてはめてみましょう。

・謡に適した発声や言葉の特性（抑揚，子音・母音の扱い，言語のもつ音質，語感）に関心をもち，それらを生かしてうたう学習に主体的に取り組もうとしている。（A表現・歌唱イ）
・謡と「囃子の手」の重なりに関心をもち，音楽表現を工夫しながら合わせてうたう学習に主体的に取り組もうとしている。（A表現・歌唱ウ）
・能の音楽の特徴と舞やあらすじとの関連に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。（B鑑賞イ）

授業計画では，歌唱イ，ウの評価規準は，第２時間めで機能させますから，最後の一覧で示すように，上記二つのものを一つにまとめた方が実際的です。

《音楽表現の創意工夫》

A表現・歌唱イに対する評価規準の設定例は，次のようになっています。
・音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成など）を知覚し,それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら,曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して,それらを生かした音楽表現を工夫し,どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
A表現・歌唱ウに対する評価規準の設定例は，次のようになっています。
・音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し,それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら,声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し，どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。

これらの設定例を「羽衣」の授業にあてはめてみましょう。

・「東遊びの数々に」の謡の音色（謡の声，掛け声や唱歌の音節の音色），リズム（囃子の手，コミ，間），旋律（節の動きや装飾），テクスチュア（謡と「囃子の手」の重なり方）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，謡に適した発声や言葉の特性（抑揚,子音・母音の扱い,言語のもつ音質,語感）を理解して，それらを生かした音楽表現を工夫し,どのようにうたうかについて思いや意図をもっている。（A表現・歌唱イ）
・「東遊びの数々に」の謡の音色（謡の声，掛け声や唱歌の音節の音色），リズム（囃子の手，コミ，間），旋律（節の動きや装飾），テクスチュア（謡と「囃子の手」の重なり方）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，謡と「囃子の手」の重なりを理解して音楽表現を工夫し，どのように合わせてうたうかについて思いや意図をもっている。（A表現・歌唱ウ）

授業計画では，この評価規準は，第２時間めで機能させますから，最後の一覧で示すように，上記二つのものを一つにまとめるとともに，知覚・感受の評価規準を独立させた方が実際的です。

《音楽表現の技能》

A表現・歌唱イに対する評価規準の設定例は，次のようになっています。
・曲種に応じた発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能(発声，言葉の発音，呼吸法，身体の使い方，読譜の仕方など)を身に付けて歌っている。
A表現・歌唱ウに対する評価規準の設定例は，次のようになっています。
・声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な技能(同上)を身に付けて歌っている。

これらの設定例を「羽衣」の授業にあてはめてみましょう。

・謡に適した発声や言葉の特性を生かして表現するために必要な声の出し方や姿勢，言葉の抑揚や子音・母音を生かした発音の仕方を身に付けてうたっている。（A表現・歌唱イ）

・謡や囃子の手との重なりを生かした表現をするために必要な拍や呼吸の合わせかた，コミや間の取り方を身に付けてうたっている。（A表現・歌唱ウ）

授業計画では，この評価規準は，第２時間めで機能させますから，最後の一覧で示すように，この二つのものを一つにまとめた方が実際的です。

《鑑賞の能力》

B鑑賞イに対する評価規準の設定例は，次のようになっています。
・音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成など）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。

これらの設定例を「羽衣」の授業にあてはめてみましょう。

・「東遊びの数々に」の謡の音色（謡の声，掛け声や唱歌の音節の音色），リズム（囃子の手，コミ，間），旋律（節の動きや装飾），テクスチュア（謡と「囃子の手」の重なり方）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，能の音楽の特徴を舞やあらすじと関連付けて理解し，解釈したり価値を考えたし，鑑賞している。（B鑑賞イ）

以上のように考えた評価規準を実際の授業を想定しながら，機能する評価規準として設定していきます。下記一覧では，「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」と「音楽表現の技能」について，事項イ，ウを一つにまとめるとともに，「音楽表現の創意工夫」については，音楽的な感受の部分を独立させた評価規準にしています。また，音楽的な感受の評価規準（下線部）は，「音楽表現の創意工夫」「鑑賞の能力」とも共通になっています。

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	・謡に適した発声や言葉の特性（抑揚，子音・母音の扱い，言語のもつ音質，語感），謡と「囃子の手」の重なりに関心をもち，それらの生かしてうたう学習に主体的に取り組もうとしている。（第１時） ・能の音楽の特徴と舞やあらすじとの関連に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。（第３時）	・「東遊びの数々に」の謡の音色（謡の声，掛け声や唱歌の音節の音色），リズム（囃子の手，コミ，間），旋律（節の動きや装飾），テクスチュア（謡と「囃子の手」の重なり方）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する。（第１時） ・謡に適した発声や言葉の特性（抑揚，子音・母音の扱い，言語のもつ音質，語感），謡と「囃子の手」の重なりを理解して，それらを生かした音楽表現を工夫し，どのようにうたったり合わせたりするかについて思いや意図をもっている。（第２時）	・謡に適した発声や言葉の特性，謡と「囃子の手」の重なりを生かして表現するために必要な声の出し方や姿勢，言葉の抑揚や子音・母音を生かした発音の仕方，拍や呼吸の合わせかた，コミや間の取り方などを身に付けてうたっている。（第２時）	・「東遊びの数々に」の謡の音色（謡の声，掛け声や唱歌の音節の音色），リズム（囃子の手，コミ，間），旋律（節の動きや装飾），テクスチュア（謡や囃子の手との重なり方）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，能の音楽の特徴を舞やあらすじと関連付けて理解し，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。（第３時）

日本の伝統音楽の場合には，「手」「コミ」「間」など，伝統的な用語を用いた学習が効果的です。

また，ここに示したのは一つの例です。学校や生徒の実態に応じて，適宜具体的で適切な評価規準を設定していただきたいと思います。

「音楽の真実」を求めて

――時空を越えるウィーン旅行記

連載
第2回

横浜国立大学　茂木 一衛

前号でのあらすじ

時は22世紀，悠美は地球と月の間に浮かぶスペースコロニー生まれ，拙著《音楽宇宙論への招待》から抜け出してきたヒロイン。芸術音楽の将来を憂い，その原点―音楽の真実―を求め地球上の音楽の都ウィーンを訪れます。国立オペラ座やシュテファン大聖堂など音楽関係の名所を訪ね，聖ペーター教会でのコンサート体験中に，まずは作曲者の世界に本気で入るべきことに気づき，彼女を見守る「天の声？」を聞きます。そして不思議な青年，光介と出会った悠美は，連れ立ってシューベルトの生家に向かうのでした。

～ 耳に響くメロディーは美しい。が，耳に聞こえぬメロディーはもっと美しい。～
（天体物理学者カール・セーガンが著書《コンタクト》（高見浩他訳）中で引用したジョン・キーツの言葉）

シューベルトって人間だったの？

人類が木星圏まで進出している22世紀のこの時代に，100年前と変わらぬ赤い路面電車の，頑固なまでの伝統の車体に揺られ，悠美はリンク通り（ウィーン中心部の環状道路）から次第に外縁へと遠ざかっていく。宇宙船が惑星の公転軌道から離れていくように…。リンク通りから離れ敬愛する作曲家の住居が近づくにつれ，彼女は時間を逆行していく感覚に襲われる。シューベルトの生きた時代，300年前への時空を辿っていくかの…。まだ電車も広い環状道路もなかった時代への夢多き時空を…。停留所に止まる毎に意識は数十年を遡る。彼女の脳裏をシューベルト最後のピアノソナタ変ロ長調D960第2楽章の響きがよぎる。かつてスペースコロニーでの宇宙遊泳中に聴いた，凍りつくように孤独な響き，月面上の太陽系連合大学でのレッスンで弾き，気の遠くなるような響きの世界を垣間見て，音楽とは何か深く考えさせられた体験。あのシューベルトの世界が近い…。

「さあ，もう着くよ」横にいる光介の声で我に返る。物思いに沈んでいた…。「あれがシューベルトの生家だ」電車を降り，二人は通りに面したクリーム色の生家に入る。ごく普通の2階建て長屋風の家屋だが，暗い階段を上りながら悠美は，そこに漂う只ならぬ雰囲気を感じる。不世出の音楽家の「存在」に圧倒される。

1階（日本風には2階）の部屋に入る。「ついにやって来たんだわ…彼が地上にいたことの証しである場所へ…」室内にはシューベルトが使っていたメガネやギター，肖像画等が展示されている。一つ一つが，かつての彼のこの世での実在を物語る。胸がいっぱいになる悠美。…部屋の一角に，22世紀の博物館施設らしくホログラムによる展示があった。若者の立体映像が二人を招く。「僕はフランツ・シュー

ベルト，二十歳です。ようこそ生家へ」

さも本物のように立体映像が口を開く。簡単な会話なら見学者と交わせるようプログラムされているようだ。悠美が語りかける。「フランツさん，私はあなたの音楽が大好き。ピアノソナタも，《未完成》など交響曲も，ミサ曲も，《死と乙女》など弦楽四重奏も，《美しい水車小屋の娘》《冬の旅》はじめ沢山の歌曲集，歌曲も」

「それはありがとう，今，言われた曲の多くは僕がこれから書く音楽のようだね」

「ええ，そうね。…ところで，あなたの音楽が好きと，一般の人々も軽い気持ちで言っているけれど私は少し違う」

「と言うと？」「私は，あなたの音楽はもっと深く遠いものと感じているの。後世の名演奏家たちによる素晴らしい演奏で味わいながら，でもそのような演奏の質や出来不出来に左右されない，そのずっと先にあると…」

「それはそう，誰がどう演奏しようと僕の音楽は僕の音楽…それは当然だ…」

ところがそこまで言った像は，思案顔になったかと思うと，突然，動きを止めた。…それまで黙っていた光介が，状況を察して口を挿む。「悠美さん，あなたが言いたいことはとても大切なことだ。でも，このシューベルト君はホログラムで，簡単な内容しかやり取りできない。観光客が問うような，常識的なことしかね。一般の人々のシューベルト理解，音楽享受を象徴するかのようだ。この先は僕たちで考えなければ…」

悠美が改めて言う。「私が求めているのは真正なシューベルトの芸術そのもの」「演奏の質は問わないんだね」

「ええ，演奏を越え響きをさえ超越して迫ってくる音楽があると思うの。それを私はシューベルトの芸術の中に最も強く感じる。世に名演奏家と言われる人の中にも，演奏で自らの表現の巧みさを誇示し細工をする人がいるけれど，多くの場合，逆効果。作為が見えた時点で幻滅。シューベルトはあくまで流れが自然でなくては」

「そう，その『自然さ』がキーワードだ。《魔王》の不気味さは，シューベルトの音楽構造そのものが残酷なほどに表現しているので，変に演劇的なわざとらしさを加えて歌えば，屋上屋を架すだけだし，《グレイト交響曲》の長大な見事な流れに，長いから飽きるだろうと無理にデュナーミク（強弱法）的な表現なんか加えれば，かえって人間臭さが鼻について天国的な魅力が失せてしまうね。」

「そう，私も全くそう思う」悠美は光介の言葉に，自分と似た感性を感じ取りうれしくなって夢中で続ける。

「いつも思うの，人間技とは思えない音楽を残したシューベルトって何者なんだろうって。作為を感じさせない自然さを突きつめれば人間らしさから離れてしまうわ。シューベルトって本当に人間だったの？とさえ思う」

「『人間だったの？』って凄いな。彼の音楽に対し，言い得て妙，と思うよ。ホログラム像のことを言うのとは違うもっと本質的な意味でね。そして音楽とは何か，という根本問題に通じる問いのようでもあるな」

光介も悠美の感覚の鋭さに感心した様子で彼女を見つめながら言う。二人の距離が急速に縮まる…。

《魔王》の声なき声が…

そのとき，何を思ってか静止していたホログラムのシューベルトが，解凍したような表情で言った。

「あ，そうそう，この生家で僕の生活と音楽に親しんで頂いた皆様には，近くにあるリヒテンタール教会に行くことをお薦めします。僕はここで洗礼を受け，一昨年も去年もこの教会のためにミサ曲を書きました。それに…」

「それに？」言いよどんだシューベルト像を見て悠美が訊く。

「それにミサ曲の初演では『彼女』がソプラノソロを歌いました。彼女はいつも《糸を紡ぐグレートヒェン》《野ばら》《魔王》など歌曲も歌ってくれている…」思いなしか像の頬が赤らむのを，悠美がめざとく認め追及する。

「彼女って何という人？」「……テレーゼ・グロープ…」そのまま像は固まってしまった。

「初恋の女性ね。どうやら，このフランツ君は自意識についてはしっかりプログラムされているようね」

「まあ，追及はそれぐらいにして，せっかくのお薦めだからその教会へ行ってみよう」

光介の言葉で悠美は矛を収め，二人は生家を出る。「そうだ，先に『魔王の家』を見ていこう，すぐ近くだ」「魔王の家？」「シューベルトが《魔王》D328を書いたという家。今は自動車工場になっていて中には入れないけど」

二人は家の前に立つ。建物の壁だけで中は見えないが悠美には聞こえる気がする，シューベルトが譜に書きつけている魔王の囁きが。…子どもは聞こえるというが馬を駆る父親には，そして耳には実際には聞こえない，恐ろしい声なき声―聞こえない旋律―が聞こえるよう，この度はひどくリアルな声で…。これはテレーゼの声？

そう，《魔王》も，シューベルトがテレーゼを意識して書き彼女が何度も歌った可能性がある。そのフランツとテレーゼの晴れの舞台こそリヒテンタール教会。…悠美は光介を急かすようにして教会への坂を下る。…やがて見えてくる二つの尖塔。可愛い教会の姿。（写真1）そこは彼が本格的な創作活動を始め，…短い人生でおそらくただ一度の真剣な恋をしたところ…。

（写真1）リヒテンタール教会の外観

…教会の中には誰の姿も見えない。白が基調の可愛らしい内陣，祭壇に向かい悠美は光介とともに佇む。ステンドグラスから射し込む明るい光に満ちた静謐な空間。何と言う清らかな美しさでしょう！ミサ曲第1番ヘ長調D105のキリエ章のあの清純な響きはこんな空間から生まれたんだわ。（写真2）

（写真 2）同教会の内陣

…のびやかな合唱が響く気がする。〈キリエ・エレイソン―主よ憐みたまえ〉。…続くソプラノ独唱の澄んだ，わずかに憂いを帯びた声。…歌い出すのをためらうかの控えめに沈む調べから，途切れがちな旋律線はやがて大きな起伏を描き，明るい響きへ開放される。流れを心で辿る悠美は，旋律線の美しさと息の長さ，この信じがたい空間にそれが満ちる様に圧倒され気が遠くなる。〈クリステ・エレイソン―キリストよ憐みたまえ〉。…ふと悠美が背後を見上げると，パイプオルガンの前，聖歌隊席に，それを歌う10代半ばくらいか若いソプラノ歌手の姿が見える気が…。テレーゼ・グロープ…。ナイーヴな麗しい声と，素直で天使のような歌い方，これではフランツ君が夢中になるのも無理はない…。

神童モーツァルトから創造主へ

…だが次の瞬間，不思議にもその声は，音声モーフィングを施されるかに次第に音色を変え，聖ペーター教会で聞いたあの優しい声に変わっていた。「悠美さん，あなたは作曲家の世界に深く入れましたね。…音楽を実際に書き残した人の世界に全身全霊で近づこうとして初めて，作品はその『感動の秘密』を開示してくれます。」

「はい，こんな体験は初めて。いつも，音楽作品はこの世に存在しているのが当然と思って聴き，自分はどう演奏するかばかり考えていました。今は，響きさえ聞こえない，静けさの中で音楽を，書いた人の『生』を思うだけ。でもこれまでのどの体験時より強くシューベルトの音楽に惹きつけられ，彼に真に出会えた気がしています」

「あなたは『響きを越える体験』をしているのです。音楽は響きからの直接の刺激が強い芸術なので，それだけに捉われがちですが，その奥―専門的にはヒンターグルント（後景）―にこそ，芸術としての大切な内容がある場合がある。ときにそれは作曲者の精神の記録，ときには…作曲者を越える！ことさえあります」「と言いますと？」「あなたは先ほど光介との会話で『シューベルトって本当に人間だったの？』と言いましたね。…音楽という不思議な芸術は，人間でない誰か，何かが生むものかも…」「え？そんなことって……，誰なのですか？」

「そのことについてあなたにしっかり感じ考えて頂くために，あなたの意識を，今度はモーツァルトに関係したある場所にお連れしましょう。…そこは神童の生と死が凝縮した時空」

悠美の意識は一瞬でリヒテンタールの教会を抜け出し，光介と来た道を引き返すと，ウィーンの中心，シュテファン大聖堂の裏手に行った。聖堂敷地の東側の街並みに作られた小さなアーケードを入ったところに。

「あなたの意識が今いる場所から東を見るとそこにはモーツァルトハウス（旧フィガロハウス）があります。モーツァルトの最盛期，彼が最も生き生きしていた時代の住居。西を見るとシュテファン大聖堂，その一部の十字架礼拝堂があります。神童の葬儀が行われた場所，死を象徴するところ。モーツァルトの生と死がアーケードの両側に踵を接して『ある』のです」（写真3・4）

（写真 3）小アーケード方向からモーツァルトハウスを望む

（写真 4）小アーケードからシュテファン大聖堂（含：十字架礼拝堂）を望む

悠美はこの時空の「重さ」に慄然とする。愛妻コンスタンツェや幼い息子カール・トーマスとの愛の巣から，一歩踏み出しアーケードをくぐると，そこはモーツァルトその人の死の世界。何という凄まじい，神童の喜怒哀楽の全てが凝縮した時空であることか！…悠美の意識の中で，神童最盛期のオペラ《フィガロの結婚》や弦楽四重奏曲集《ハイドン・セット》など名作の数々が，それらが内包する様々な感情や世界観とともに重層的に鳴り響く。これまで彼女が現実に聴いたどの響きより遥かに感動的に…。作曲者の創作と生活の場に実際に身を置いて初めて経験する，表面は明るい神童の芸術の，リアルで底なしの，恐ろしいほどの深み…。

そこから1曲のピアノ協奏曲の世界が浮かび上がる。ニ短調K466（第20番）の激しく暗い響きが。…響きはアーケードを抜け十字架礼拝堂へ向かう。そこで同じニ短調の《レクイエム―死者のためのミサ曲》K626の暗欝なそれへと変貌する。…やがて，未完に終わるこの名作の〈キリエ〉大二重フーガが始まる。モーツァルトがほぼ完全な形のスコアを地上で書き残したほとんど最後の部分，最後の音符の数々…複雑な対位法のテクスチュアを縫い上げるように各声部から調を変え何度も「キリエ…」「クリステ…」の呼びかけが高みへと発せられる。そして章末では，天への募る思いが不気味で苦しげな半音階的上行を生み，内声部が天国へも届けとばかり「キリエ―主よ！」を必死に連呼する。その果ては圧倒的な減七和音！！直後のフェルマータ付き休符―音のない音楽への入り口―とともに放たれ，シュテファン大聖堂の巨大な尖塔をも突き抜けて宇宙へ向かう残響の鋭い矢。人類史上最大の天才の一人が末期(まつご)に書き残したのは，人智を越えた造物主が住みたもう世界への果てしない思い。

「モーツァルトでさえ，自らの最後の言葉を天に届けようと，完成を天に委ねようとしたかのよう。全知全能，万物の創造主に…。私は特に宗教心，信仰を持つわけではないけれど，真剣に音楽について思えば思うほど，何か人間を越えた存在？を感じてしまう」そのとき，「音楽を創造するのは誰か」「音楽とは何か」という根源的な問いが再び悠美の全身を貫いた。…「悠美，悠美さん！」光介の声がかすかに聞こえる。…（続く）

和楽器を使う授業のコーディネート

連載③

●作曲家　眼龍 義治

箏を使う授業の実践　その2

はじめに

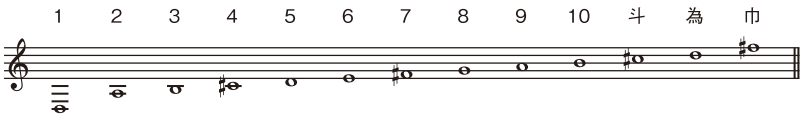
前回は，初めて箏の授業を実践するとして「さくらさくら」を教材として取り上げました。箏は柱の立て方により，どのような調弦法も可能です。その点は他の民族楽器にはない利点であろうと思います。そこで，今回は5音旋法ではなく，7音音階（Dur）を用いた楽曲の実施方法についてお話ししようと思います。

なお，使用する楽譜は前回同様横書き譜とするので，算用数字譜とします。

「夏の思い出」を選曲するにあたって

「夏の思い出」を取り上げた理由は，①教科書に掲載されていること，②順次進行が多く箏で演奏しやすいこと，③反復部分が多く練習しやすいこと，等があげられます。特に，初級者には順次進行の多い曲が演奏しやすく適しています。

長音階で創られた楽曲を演奏する場合，5音旋法の調弦法を用いると，押し手を多用しなくてはならなくなり，非常に難しくなります。そこで，その曲に適した調弦法を工夫します。今回は教科書で使用しているニ長調を用いることにしました。その理由は，①箏で演奏しながら歌う場合に便利である。②**1**の弦をD音（最低音）とすることが，今日一般的に使用されているテトロン弦では適切である，等を考慮しました。なお，普通に7音音階で調弦すると，1オクターブ半くらいしか音域が確保できなくなります。そこでひと工夫し，次のような調弦法としました。



1～**2**音間を5度空けることで音域を広くとる工夫をします。**巾**をE音とせず，Fis音としたのは**巾**までのグリッサンドを弾いた時，主和音の構成音で終わるようにするためです。このような調弦上の工夫が必要です。

楽譜について

前回の「さくらさくら」と同じ方法で作譜しています。先ず，左端の①～⑧は楽譜ではなく，何段目かを表します。1小節目は伴奏部（箏Ⅱ）担当なので，小数字としました。下線部分は八分音符，**ー**部分は二分音符，・は付点音符，**0**は休符を表します。楽譜の上部に記した漢数字は薬指を掛ける弦

を表します。ただし，薬指を掛ける弦は手の大きさによって異なりますから，その前後の弦を含めて考えてかまいません。小算用数字は指の指定で，1は親指，3は中指となります。ただし，親指は通常は無印であり，親指以外の奏法を行った後親指に戻る時，1の指示を明記するのが一般的です。

箏Ⅱの楽譜で“指”と指定した部分は爪ではなく，肉指で奏します。また，左右と記した部分は左の指，右の指で奏する指定です。左手はどの指でも可能ですが，右手は当然薬指になります。そこで，①～②段目のように左右交互に演奏する場合は，両手とも薬指に統一した方が良いと思います。④段目のグリッサンド（**1** ～）は途中で音を消すグリッサンドです。また，⑧段目のグリッサンドは途中の弦から始めて，途中の弦で止めるグリッサンドです。このようにグリッサンドを3種類入れて編曲してあります。⑧段目の**ヲ5**は半音高くする押し手（#）です。

このように算用数字を用いて横書きにすると五線譜の記譜法が活用でき，大変便利です。生徒たちは非常に気に入ってくれています。

「夏の思い出」を演奏する

箏Ⅰ

①段目，2小節目から始めます。薬指を三弦に掛け，親指の爪で弦を押さえる感覚で，常に次の弦に爪をつけて弾きます。特に長い音の場合，爪を宙に浮かせてしまう生徒がいるので，個人的に指導しなくてはなりません。（教師が一生懸命手本を示しても，爪を浮かせる生徒がいます）

②段目の1小節目と，④段目の1小節目は全て同じ音ですが，4拍目が付点になるか，休符になるかの違いがあります。民族楽器は原則として弾いた後の音を消しません。従ってこの部分の休符はあまり拘る必要はないと思います。ただし，洋楽風に正確な演奏を求める場合は，休符のところで弦に触れて振動を止めます。

⑤段目は高い音を弾きますから，④段目の最後で，薬指を五弦に掛けます。

⑦段目は最初と同じフレーズを弾くので，薬指を三弦に掛けても良いのですが，⑧段目でまた高い音を弾くので，三弦に移動せず，五弦のままの方がよろしいでしょう。

フェルマータの後，薬指を一弦に掛け，低い音を弾きます。最後のグリッサンドは乱暴にならないよう，丁寧に演奏します。（生徒たちはグリッサンドが大好きで，つい乱暴に弾いてしまいます。「この曲の曲想に相応しいグリッサンドを演奏しよう」と言ってあげると綺麗に演奏します）

箏Ⅱ

①段目は指で，左右を記譜通り演奏します。指で演奏するのは優しい音色で演奏する時に用いるテクニックです。そこで，弾く位置を龍角から離し，弦の中程で演奏します。3小節目後半は親指で演奏するので，薬指を素早く七弦に掛けます。すると，斗109が簡単に弾けます。

②段目はリズムがゆっくりになりますが，音が動きますから少し注意が必要です。最後は低い音を親指で弾くので，薬指は一弦に掛けます。

③段目，④段目は，①②段目の変奏（応用）ですから，基本的には同じ要領で練習します。

①～④段目までの各段の最初の音は，常に左手で1を弾くよう配慮して創ってあります。部分練習が終わり，通して弾く時にそのことを教えてあげます。すると，楽に弾けるようになります。

④段目最後のグリッサンドは途中で消すグリッサンドです。7か8あたりで爪を弦から離し，⑤段目の10を正確に弾く体勢を整えます。つまり，薬指を四弦に掛け，親指の爪で10を確実に押さえるよう準備します。

⑧段目は，薬指を二弦に掛けます。中指の爪が自然に1に掛かり，親指の爪はちょうど5に掛かり，1と5が簡単に弾けます。

3拍目の押し手について説明しましょう。左手の親指をL字型に広げます。（他の指は揃

える）親指を五弦の柱の２～３ｃｍ左に置きます。Ｌ字型のまま，人差し指と中指を揃え，弦を真下（箏の胴）に向かって押します。斜めに押すと柱や箏が動き，正しい押し手になりません。なお，押す時は人差し指と中指以外の指は弦から離れてかまいません。押し手は，押す位置が非常に大切です。柱に近いと柱が倒れやすくなり，柱から遠いと音が充分に高くなりません。（親指はその位置の確認の働きをします）　弦の張り具合によって力の加え加減が異なります。半音高くなる感覚を体感して下さい。最後に，押し手は次の音を弾き始めるまで離してはいけません。このことは押し手にとって極めて大切なことです。（この楽譜の場合は，次のグリッサンドを弾いている途中で離す）

３～10（途中の弦から途中の弦まで）のグリッサンドは意外に難しいです。乱暴にならないように充分に心して下さい。また，この場合はフェルマータに向かうので少しゆっくり気味に演奏すると優しいグリッサンドになります。生徒たちはグリッサンドが大好きです。つい乱暴に弾いてしまします。箏Ⅰでも記しましたが，この曲の曲想に相応しい最良のグリッサンドを演奏するよう，適切なアドヴァイスが必要です。

以上，かなり詳細に説明しましたが，如何でしょうか。筆者は東京都品川区立の中学校でこれを実施しております。小学校で３時間「さくらさくら」を体験した生徒たちですので，基本的な奏法が身についており，すぐ旋律の練習に入れます。３時間で二部合奏を達成しています。箏Ⅱのパートはいろいろな技法を織り込み，相当欲張った編曲になっているので，３時間で合奏を達成するには指導上の工夫が求められるかも知れません。

最後に

本稿は教科授業を前提に，限られた面数の箏（二人で一面）での授業展開方法として記しました。そのため箏Ⅰと箏Ⅱの調弦法を同一にしてあります。全生徒が箏Ⅰ・箏Ⅱ両方を体験し，二部合奏の実施にあたっては，パートを交替して体験できるよう配慮しました。

箏は柱の立て方次第で，どのような調弦法も可能ですが，今回のように長音階で調弦すると音域が１オクターヴ半位に制限されます。そこで，演奏する曲目に応じていろいろ工夫する必要があります。一般的に，二部合奏の場合は低音部と高音部で調弦法を変え，全体の音域を広げることが行われています。

箏Ⅰの始まりが「さくらさくら」と同じ弦になるよう考慮して調弦しました。そのことに気付き，質問する生徒が時々います。編曲者としては大変嬉しい瞬間です。「そのことこそが箏の特性であり，とても素晴らしい楽器なのだよ」と，言って最大級に褒めてあげています。

音楽鑑賞用 DVD

オーケストラ入門

Guide to the Orchestra

- 世界が注目する若きマエストロ，アラン・ギルバートのリハーサルを収録
- オーケストラの歴史や楽器の紹介等，音楽鑑賞教育授業に役立つアイテムを収録
- ライブラリアンやステージマネージャーの仕事も紹介
- 協奏曲や大編成オーケストラ等，オーケストラの魅力が満載

収録内容

◆オーケストラの歴史（約４分）
ハイドンとモーツァルト／２管編成のオーケストラ／小編成から大編成のオーケストラへ
紹介曲…交響曲第 35 番ニ長調 K.385「ハフナー」から（モーツァルト作曲）

◆オーケストラで使用される主な楽器（約 21 分）
木管楽器／金管楽器／打楽器／ハープ／弦楽器
紹介曲…交響組曲「シェエラザード」作品 35 第２楽章（リムスキー・コルサコフ作曲）シャルル・デュトア指揮／ＮＨＫ交響楽団

◆ステージに上がるまで（約 23 分）
リハーサルから本番まで
紹介曲…交響曲第３番変ホ長調作品 55「英雄」第１楽章（ベートーヴェン作曲）アラン・ギルバート指揮／ NHK 交響楽団

◆協奏曲―ソリストと共演するオーケストラ（約 12 分）
紹介曲…ピアノ協奏曲第２番ハ短調作品 18 第３楽章（ラフマニノフ作曲）イム・ドンヒョク（ピアノ）／シャルル・デュトア指揮／ NHK 交響楽団

◆大編成の管弦楽曲（約 13 分）
紹介曲…交響詩「英雄の生涯」作品 40 から抜粋（リヒャルト・シュトラウス作曲）シャルル・デュトア指揮／ NHK 交響楽団

定価：本体 17,000 円＋（税）
全１巻／約 72 分／解説書（A5 変型判 12p）付
監修：池辺晋一郎（作曲家／東京音楽大学教授）
協力：NHK 交響楽団　　資料協力：武蔵野音楽大学楽器博物館，音楽之友社
発行：NHK エンタープライズ　　発 売 元 ：教育出版株式会社　TEL 03-3238-6908

編集部からのお知らせとお願い

平成24年度用教科書（「中学音楽 音楽のおくりもの」「中学器楽 音楽のおくりもの」）の下記の箇所に訂正がございます。

また，教師用指導書におきましても関連修正箇所がございます。

大変恐縮でございますが，ご指導の際は，ご配慮くださいますようお願い申しあげます。

学年・巻	ページ	行・箇所	原文	訂正文
1	40	折込右側下	秩父夜祭り	秩父夜祭
	巻末	折込右側中		
	巻末	折込左側中	～長い蛇を10人で操る「蛇踊り」が～	～長い龍を10人で操る「龍踊（じゃおどり）」が～
2・3上	32	折込右側		
2・3下	41	中右	秋保の田植え踊り	秋保の田植 踊
	44	上本文２行め	（主題と12の変奏およびフーガ）	（主題と変奏およびフーガ）
器楽	83	下	ジョビン　作曲	ロボ，ニウチーニョ　作曲

打楽器 イロハ

小田もゆる著

予価 本体 1,500 円＋(税) B5 判　72 ページ

私たちの身近にある多種多様な打楽器の演奏法はもちろん，手入れや運搬方法などにも触れた実用書。各楽器の演奏の基本を，豊富な譜例や写真を用い，筆者ならではの観点で楽しく解説。

内容

第 1 章〜身近な打楽器…タンブリン，カスタネット，トライアングル，ウッドブロック，すず，スレイベル／第 2 章〜オーケストラでよく使われる打楽器…大太鼓，ティンパニ，シンバル，小太鼓／第 3 章〜音階のある打楽器…マリンバ，シロフォン，ヴァイブラフォン，グロッケンシュピール／第 4 章〜個性的な打楽器たち…マラカス，ギロ，カウベル，クラベス，ボンゴ・コンガ，ドラム，和太鼓，ヴァイブラ・スラップ，どら，ラチェット，フレクサトーン，むち，ハーモニックパイプ，レインスティック／第 5 章〜アンサンブルで楽しもう…トーンチャイム，ミュージックベル，チューンド・パーカッション・チューブ／第 6 章〜バチ…バチの種類，バチの持ち方・構え方／第 7 章〜作ってみよう…身近なもので音をだしてみよう，竹楽器を作ってみよう

教育出版　〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10　TEL 03-3238-6965　FAX 03-3238-6999

中学・高校音楽通信　Spire_M〔2012 年 秋号〕　2012年 10月 1日　発行

JASRAC　出 1211098-201
表紙写真：©JTB フォト

編　集：教育出版株式会社編集局　　発　行：教育出版株式会社　代表者：小林一光
印　刷：大日本印刷株式会社　　発行所：教育出版株式会社
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 2-10　　電話　03-3238-6864（お問い合わせ）
URL　http://www.kyoiku-shuppan.co.jp

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は，科学技術の進展や国際化，情報化，高齢化などによって，今，大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で，人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには，人や自然を大切にしながら，共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは，この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め，社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL：011-231-3445　FAX：011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL：0138-51-0886　FAX：0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL：022-227-0391　FAX：022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL：052-262-0821　FAX：052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL：06-6261-9221　FAX：06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL：082-249-6033　FAX：082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL：089-943-7193　FAX：089-943-7134
九州支社	〒810-0001 福岡市中央区天神 2-8-49 ヒューリック福岡ビル 8F TEL：092-781-2861　FAX：092-781-2863
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F TEL：098-859-1411　FAX：098-859-1411